

【別紙様式 I】 令和6年度 学校評価報告書

学校名 厚木市立戸田小 学校

厚木市教育委員会の基本目標

- 1 自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成【挑戦】
- 2 自他の命や豊かな感性を大切にし、多様性を認めながら共に生きていく力の育成【共生】
- 3 変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してより良い社会を創る力の育成【創造】

校長名 山内 タ

学校教育目標

学校経営の方針

ゆめをはぐくみ 自信をもって未来にはばたく 戸田っ子の育成

- ・児童が楽しいと感じる学校 ・共に学び共に育つ学校
- ・教職員がやりがいを感じる学校 ・家庭・地域から信頼される学校

今年度の重点目標

・知的好奇心に働きかける「わかる・できる・楽しい」授業づくり ・創意工夫を通した楽しく活気のある学校づくり ・基本的生活習慣の確立と健康で丈夫な体づくり ・学校運営協議会制度を生かした学校づくり安心・安全な環境づくり

評価項目・指標等	基本目標との関連	具体的な取組	成果と課題	次年度への具体的な改善策
学校は「わかる・できる・楽しい」授業づくりを行う。	1・2・3	・個別の学習指導を行うことを通して、基礎・基本的な学力の定着を図ったり、学習に遅れが生じないよう支援したりした。 ・GIGAスクール端末を生かした授業づくりを工夫した。 ・児童同士の学び合いによる思考力・表現力の向上を図った。	・分かりやすい授業が概ねできていると考えられるが、1割の児童ができていないと回答している。そのような児童に対して、学習の遅れが生じることがないように、手立てを講じる必要がある。	・児童が授業や学習の内容をより理解できるように、児童の学習状況に合わせた少人数指導や個別学習などを行うことで指導の改善を講じる。 ・授業で話し合い活動のある展開をしたり、GIGAスクール端末の掲示板機能を活用したりすることで児童同士が協働的に学ぶことができるようにする。
子どもが進んで学習に取り組むようにする。	1・3	・「家庭学習の手引き」の周知を行った。 ・宿題等の家庭で行う学習の内容を工夫した。 ・読書活動の推進と学校図書館の活用をした。	・8割以上の児童が進んで学習に取り組んでいると感じている。 ・18%の児童が進んで学習に取り組むことが難しいと感じている。 ・保護者と児童の感じている学習に取り組む姿勢にギャップが生じている。 ・保護者と教員の回答にもギャップが生じている。児童の家庭学習での姿と授業での姿にも違いがあることが考えられる。	・さらに「家庭学習の手引き」を周知をしていくことで、児童が家庭学習により自発的に取り組めるようにする。 ・学習の場に合わせた様々な教材の活用を促進する。 ・引き続き、進んで学習に取り組みたいと思える授業作りに励んでいく。
生活科や総合的な学習の時間では、体験活動や地域素材を生かした授業をする。	1・2・3	・生活科や総合的な学習の時間で体験活動や地域素材を生かした授業を行った。	・約1割の児童が「あまり当てはまらない」「当てはまらない」と回答している。 ・体験活動をしたり地域素材を生かしたりすることができているが、児童に体験活動の価値や地域の方々が学習にどのように関わっているかがうまく伝わっていないことが考えられる。	・児童に地域の方々との関わりについて伝わりやすい授業を講じる。 ・児童が活動や体験の価値が分かるよう、振り返りを生かした授業を行う。 ・引き続き地域の方々や協働して体験活動を充実させていく。
子どもが進んで挨拶ができるようにする。	2・3	・児童会主体で「あいさつ運動」に取り組む、挨拶の活性化を図った。 ・各学級で挨拶の指導を行った。 ・朝会で地域の見守り隊の方々を紹介したり、校長講話にて挨拶を行うことの大切さについて児童に伝えたりし、地域の方々に対して感謝の気持ちをもって挨拶ができるようにした。	・今年度は、児童会主体で「あいさつ運動」に取り組み、挨拶の活性化を図ることができた。 ・学校内で、進んで挨拶をしたり、挨拶を返したりする児童の様子がよく見られた。 ・登下校時に、地域の方に進んで挨拶ができる児童の様子が見られたようである。 ・自主的に挨拶をすることに対して課題と感じている児童がいる。 ・保護者アンケートでは、挨拶における課題についての記述が多くあった。	・「あいさつ運動」の推進を図る。 ・挨拶の意義を考え、友達との関係をつくることで、温かい学級経営につなげていく。 ・地域における挨拶の輪が広がるように今後も地域との連携を推進していく。

児童が友達と楽しく過ごせるようにする。	1・2・3	・児童の自発的・自治的な活動による学級活動と児童会活動の充実を図る。 ・温かい学級経営を行う。	・学校生活の様子やアンケート結果から、児童は概ね楽しく学校生活を過ごしていると感じている。 ・学校生活を楽しく過ごせていないと回答した児童が数名いることは見逃すことができない。	・学級活動や児童会活動を中心とした児童が主体的に活動できる環境をつくり、児童の成功体験を増やし、自己肯定感を高める。 ・お互いを認め合える学級づくりに励み、学校が温かい居場所と感じられるよう、学級経営に努める。 ・個別の相談時間を確保し、一人一人の思いに対応できる相談体制をとる。
保護者や児童との関係づくりに努める。	1・2・3	・全職員で児童を見守り、声掛けを積極的に行い、児童指導上の問題については、解決に向けて組織的に取り組んだ。	・こころスマイル支援員やスクールカウンセラーと連携し、「ほっとルーム」の運用など、児童の居場所づくりをはじめ、安心して登校できる環境づくりに努めることができた。 ・児童にもより分かりやすいかたちで相談先の周知が必要であった。	・児童が困った時は、全職員、誰でも相談できることを周知していく。 ・引き続き、児童が安心して相談できる雰囲気づくりをしていく。 ・児童が安心して学校生活が送れるよう、相談体制の整備や児童の居場所づくりを継続していく。 ・「ほっとルーム」前に相談できる日を提示するなど、児童が確認できる環境を整える。
児童が進んで体づくりに励めるようにする。	1・2・3	・スポーツテストや児童体育委員会による全校参加型の遊びを通して、からだを動かすことの楽しさが感じられる指導や活動を充実させるとともに、また安心して遊べるよう、校庭のルールを明確化した。	・結果として、児童が外で楽しく遊ぶ姿が見られた。 ・児童や保護者の評価は教員よりもわずかに低いため、からだを動かすことの楽しさや快適さを児童が実感し、習慣化させるためには、さらに工夫を重ねることが課題と考えられる。	・スポーツテスト等の機会の技術指導を充実させ、体育時の外部講師も積極的に活用する。 ・一輪車等遊具使用時のルールの徹底と、保護具の整備、補充を行う。 ・児童体育委員会による遊びの充実を目指す。 ・運動が苦手な児童も楽しめる取組を企画・運営する。
児童が健康的な基本的生活習慣が身に付けられるようにする。	1	・家庭での日々の積み重ねや学校での健康教育を促した。	・保護者、教員ともに、9割以上の児童に健康的な生活習慣が身についていると感じている。 ・家庭での日々の積み重ねや学校での健康教育が児童の行動につながっていると考えられる。継続して取り組んでいきたい。 ・ほとんどの児童が健康を守る生活習慣に取り組んでいると回答しているが、評価の低い児童がいることから、大人が見ていないところでの様子が気になる。自らの健康のために自発的に行えるよう、工夫していきたい。	・手洗い、歯みがき、ハンカチの携行等、日常の学校生活での基本的な生活習慣の確立を推奨する。 ・健康教育に関する授業の充実させる。 ・学校医・学校歯科医等専門家による助言指導を積極的に活用する。 ・児童保健委員会や給食委員会による児童が主体となった活動を推進する。

児童は、自ら生活環境を清潔にしようと努められるようにする。	1・2・3	・児童環境委員会によるトイレトペーパーの芯の回収等のエコ活動や、日常の縦割り清掃等を通して、高学年が低学年のお手本となって自ら環境整備をできる環境衛生教育に取り組んだ。	・整理整頓に苦手さを感じている児童が4分の1おり、整理整頓の仕方が分からないことが考えられる。学校の清掃時間には、一生懸命やろうとする様子はうかがえるため、今後は清掃の仕方、整理整頓の仕方の具体的な方法の指導に力を入れたい。	・整理整頓の仕方のチェックリスト等、発達段階にあわせて、児童自身が身に付けるべき力を精選し、指導に生かしていく。 ・清掃用具の整備や清掃の手順の掲示など、児童が進んで取り組める環境の充実を図る。 ・環境委員会による学校全体へのエコの推進活動をさらに充実させる。
地域と協働して活動の充実を図る。	1・2・3	・サポート隊の活動、ふれあいまつり、授業での取組など、様々な場面で地域と連携してきた。	保護者、教員、児童ともに地域との連携や様々な活動を高く評価している。 ・サポート隊の活動や学校運営協議会の意図や意義の共通理解を深める必要がある。	・地域との協働について全職員の共通理解を深める。 ・感謝の気持ちを忘れずに、地域も学校も、みんなが互いに高め合い、WIN-WINな気持ちになるような活動の充実に努める。
安全教育を日常的に効果的に行う。	1・2・3	・年間を通して交通ルールへの意識を高め、持続させるため、交通安全教室、下校指導、登校班長会議、交通安全標語の募集などの活動を行った。	・登校時に比べ、下校時や放課後の交通マナーに課題がある。	・次年度は、地域や家庭と協力して下校時や安全についての意識を高めていきたい。
災害時や緊急時に適切に行動できるようにする。	1・2・3	・学期ごとの避難訓練に加えて、水害時避難訓練、不審者対応訓練などを行い、災害時や緊急時の対応について考え、行動できる児童の育成を図った。	・緊急時にどう対応していいかわからないと感じている児童が1割程度いる。	・学校での避難方法や緊急時の対応について繰り返し伝え、自身で考えるように指導していく。 ・学校で行われている安全教育をHP等で発信し、家庭にも呼び掛けていく。

今年度の学校関係者評価委員会からの意見

- ・児童の体験活動が推進されるにつれて、児童と地域とのかかわりが大切になることを確認した。
- ・子どもたちの学びの場を広げるためには、地域の力が必要になる。今年度からスタートした「地域学校協働活動」をより充実したものにし、地域との協働する姿を模索し、地域に呼び掛け、子どもたちの成長へとつなげていかなければならないと確認した。
- ・子どもたちは地域の中で育ち、地域を誇りに感じながらのびのびと成長してほしい、たくさんの方と関わり様々なことを学んでほしいとの思いが一致した。

今年度の学校経営のまとめ ・ 次年度への改善の方針

- ・一人一人個性の違う戸田っ子が、この戸田小学校を学びの場として、共に学び、共に育ちながら、学ぶことの楽しさ、人を思いやることの大切さ、命の尊さを実感できるようにしていきたい。
- ・学習活動を通して、日常の様々な事象を、自分ごととして捉え、考える力、判断する力、関わり合う力を育む教育活動を推進していく。自ら、自分の夢を育んでほしい。自ら、自分たちの未来を創ってほしい。時代の変化の波を生き抜く力を培ってほしい。そう願ひ、学校教育目標を「夢を育み 自信をもって未来を拓く 戸田っ子の育成」とアップデートする。